

専門委員会開催報告

会合名	「原子力アゴラ」調査専門委員会第4回研究炉等検討・提言分科会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*(第4回研究炉等検討・提言分科会) <small>*分科会、WG等具体的に記入のこと</small>
開催日時	2024年2月1日(木) 10:00~12:00 <small>メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと</small>
開催場所	オンライン開催
参加者名	芳原主査, 堀幹事, 天谷委員, 神永委員, 曾野委員, 中島委員, 中塚委員, 永富委員, 峯尾委員, 村尾委員, 求委員, 与能本委員, 綿引委員
議事	<ol style="list-style-type: none">前回議事録案の確認 前回会合の議事録案の確認を行った。コメントがあれば1週間を目途に連絡することとなった。原子力アゴラ調査専門委員会における活動報告 芳原主査より、1月23日に開催された原子力アゴラ調査専門委員会の概要報告及び本分科会の活動報告について説明があった。報告書案の作成進捗について 資料2-1,2-2,3-1~3-3を用いて、各担当者より、報告書案作成の進捗状況に関する説明があり、以下のような議論・コメントがあった。<ul style="list-style-type: none">➤ 事例については具体的な記載とし、第三者が読んでもわかるようにすべき。また、根拠を明示することが必要。➤ これまでに出されているコメントに、まずは対応することが必要。また、未だコメントを出していない人は、是非コメントを出してほしい。➤ 2月末頃を目途に、事例についてのコメントを担当者に提出することとした。➤ 執筆者が未定であった部分についての執筆担当者を検討した。規制側との意見交換について 報告書の中間とりまとめを行い、それを踏まえた規制側との意見交換会を、今年の原子力学会秋の大会における企画セッションとして開催することを検討した。次回の本分科会において、企画セッション案について議論することとした。その他 米国における規制の状況について、JAEAが対応している申請前審査の事例紹介があった。次回以降の会合において、担当者より詳細を紹介してもらう予定。今後の予定 次回会合は、4月中旬頃に開催することとした。
備考	

2023年12月25日

専門委員会開催報告

会合名	「原子力アゴラ」調査専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*(第3回研究炉等検討・提言分科会) <small>*分科会、WG等具体的に記入のこと</small>
開催日時	2023年12月19日(火)17:30 ~ 19:30 メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	オンライン開催
参加者名	11名 芳原(主査)、堀(幹事)、中島、峯尾、天谷、曾野、永富、村尾、求、与能本、綿引
議事	<p>1. 前回議事メモ確認 資料1-2を用いて、前回会合の議事メモを確認した。</p> <p>2. R5年度活動(報告書作成の進捗について) 試験炉許認可に係り収集した事象の整理・分類等について、議論を行った。主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 収集事象のエビデンスとして何を使用するのか、何が使用できないのかを議論した。➢ 許認可審査の進行に関して、事業者の作業性のみではなく、規制当局における作業性及び被規制/規制間のコミュニケーションについても議論した。➢ 収集事象の整理区分について議論した。 <p>報告書のドラフト案について、資料3-3、資料3-2.1、資料3-2.2、に基づき、各担当者より説明の後、議論を行った。主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 第3章については、前述の議論を受けて整理・分類作業を進めることとした。➢ 2.2の記載のうち、2.2.3「研究炉等に係る規制基準を構成する際に採るべき道筋」については、どの様に修正するかは他の箇所とのバランスを見て調整することとした。➢ 2.3の記載については、定義に係る記載を減らし、より包括的に読める様に文章を修正することとした。 <p>報告書に取り纏めに係るマイルストーンとして以下の通りとした。</p> <p>2024年7月末頃: パーツごとの原稿案執筆完了 2024年9月: 中間とりまとめ、2025年2月: 報告書の完成及び公表</p> <p>3. 次回分科会について 次回の分科会は、2024年2月上旬に開催の予定。</p>
備考	

専門委員会開催報告

会合名	「原子力アゴラ」調査専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*(第 2 回研究炉等検討・提言分科会) *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2023 年 10 月 12 日(木)13:00 ~ 16:00 メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	オンライン開催
参加者名	芳原新也(主査)、堀順一(幹事)、中島健、峯尾英章、天谷政樹、曾野浩樹、村尾裕之、求惟子、与能本泰介、綿引俊介
議事	<p>1. 前回議事メモ確認 資料 1-2 を用いて、前回会合の議事メモを確認した。(修正なし)</p> <p>2. R5 年度活動方針(報告書作成について) これまでの議論に基づき報告書を作成することを確認し、資料 2 に基づき報告書のとりまとめ方について、議論を行った。主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 収集事例評価に対する一次サーベイを 2023 年 10 月末までに実施する。 ➢ 一次サーベイ結果について、次回以降の分科会で議論をする。 <p>報告書のドラフト案について、資料 3~資料 3-3.3 に基づき、各担当者より説明の後、議論を行った。主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2の書き出しについては、修正ドラフト案を基に改訂する。 ➢ 「事業者としてのあるべき姿」は 4.に記載箇所を変更する。施設内在リスクの表記方法については、引き続き検討する。 ➢ 「法令の求める安全」に係る記載内容では、米国 DOE や IAEA の関連文書などを引用しつつ、放射線業務従事者の防護など、規制が求める安全の考え方等について追記する。規制組織については、4.に記載。 ➢ 「グレーデッドアプローチ」に係る比例原則の記載については、基本的事項のみに留め、裁量の踰越おそれについては記載しないこととする。 ➢ 試験研究炉に係る取り纏め組織について、4.との記載内容と見合わせながら記載ぶりを調整する。 ➢ JAEA の取り纏め組織としてのあるべき姿について追記する。 <p>今年度中の報告書取りまとめを目指すこととした。公開方法については、次回以降の分科会において引き続き検討することとした。</p> <p>3. 次回分科会について 次回の分科会は、2023 年中に開催の予定。</p>
備考	

専門委員会開催報告

専門委員会名	「原子力アゴラ」調査専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*(第1回研究炉等検討・提言分科会) *分科会、WG等具体的に記入のこと
開催日時	2023年8月2日(水)15:00～17:15 メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	オンライン開催
参加人数	12名 中島(主査)、峯尾(幹事)、天谷、神永、曾野、永富、芳原、堀、村尾、求、与能本、綿引
議事	<p>1. R5年度研究炉等の役割検討・提言分科会構成員の確認 資料1-2をもとに、今年度の分科会構成員の確認を行った。(変更なし)</p> <p>2. 前回議事メモ確認 資料1-3を用いて、前回会合の議事メモを確認した。(修正なし)</p> <p>3. R5年度活動方針(報告書作成について) 今年度の活動として、これまでの議論に基づき報告書を作成することを確認し、資料1-4に基づき報告書のとりまとめ方について、芳原委員より説明の後、議論を行った。主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 全体構成としては、初めに原子力規制に求められる姿(理想)を示し、それに対する現状を確認後、現状の課題を抽出し、最後に課題解決の方針(提言)を示す。 ➤ 試験研究炉が発電炉に比べて低リスクであることを示す指標として、何をを用いるべきか検討が必要。 ➤ 研究炉等規制のグレーデッドアプローチ適用に関連する「重要度」についての考え方が、明確でなく、規制側と被規制側で共有されていないところが課題と考える。 ➤ 現状を示す事例の内容については、エビデンス確認等の精査が必要。また、分類については、安全に関する基本的考え方に関連するものもあるため検討が必要。 ➤ 規制側に求めることだけではなく、事業者にも求めることも記載すべき。 ➤ 「事象の評価区分」(資料1-4-1)については、担当者以外の確認も必要。また区分の根拠も記載すべき。 <p>以上の議論を踏まえ、まずは報告書の主要部分(第2章、第3章)について、資料1-4-2を用いて執筆担当者を決定し、簡単なドラフトの執筆を行うこととした。</p> <p>4. 次回分科会について 次回の分科会は、9月末あるいは10月前半に開催の予定。また、次回より芳原委員が本分科会の主査を、堀委員が幹事を務めることとなった。</p>
備考	